

(1) 普門寺本堂、大師堂、弁天堂（旧龍神宮）、十王堂、鐘楼門、仁王門について

所在地：豊橋市雲谷町字ナベ山下7

所有者：宗教法人普門寺

名 称	形 式	建 設 年 代	登 録 基 準
普門寺本堂	木造平屋建、 銅板葺	元禄 6（1693）年／ 昭和 31（1956）年・ 平成 11（1999）年改 修	造形の規範となっている もの
普門寺大師堂	木造平屋建、 銅板葺	嘉永 7（1854）年／ 平成 2（1990）年改 修	造形の規範となっている もの
普門寺弁天堂 （旧龍神宮）	木造平屋建、 こけら葺	正徳 4（1714）年／ 宝暦 5（1755）年・ 安政 3（1856）年移 築、平成 11（1999） 年改修	造形の規範となっている もの
普門寺十王堂	木造平屋建、 瓦葺	嘉永 5（1852）年／ 昭和 63（1988）年頃 ・平成 3（1991）年 改修	国土の歴史的景観に寄与 しているもの
普門寺鐘楼門	木造 2 階建、 銅板葺	宝永 4（1707）年／ 昭和 28（1953）年・ 平成 11（1999）年改 修	造形の規範となっている もの
普門寺仁王門	木造平屋建、 銅板葺	江戸中期／平成 8 （1996）年改修	造形の規範となっている もの

【概要】

船形山南東斜面に位置する真言宗寺院。境内西側に本堂が位置し、北に大師堂、弁天堂（旧龍神宮）、境内中央に十王堂、鐘楼門、境内入口に仁王門が位置する。

本堂は寄棟造り¹銅板葺きの五間堂²で、外陣³は桁行 3 間の虹梁⁴形頭貫⁵を架け、海老虹梁⁶で側柱と繋ぐ架構などに地域的特色を示す。

大師堂は宝形造り⁷銅板葺きの三間堂で、正面に一間向拝⁸を付し、三方に縁を廻らす。軒出が大きく軽快な姿の仏堂である。

弁天堂（旧龍神宮）は覆屋内に建つ小社で、向拝は虹梁形頭貫を龍 2 頭の尾を絡めて火灯形とするなど、独創的な意匠で装飾豊富な社殿である。

十王堂は、片入母屋造り⁹妻入り¹⁰で、妻飾は虹梁大瓶束¹¹とする簡素ながら参道に妻飾をみせ境内景観をつくる仏堂である。

鐘楼門は一間一戸の楼門で、上層内部は一室の板敷とし、竿縁天井^{さおぶちてんじょう}¹²を張り、中央に鐘を吊る。軒出が大きく雄大な姿の鐘楼門で境内の主要な構えをつくる。

仁王門は寄棟造り銅板葺きの八脚門で、両脇間の後方に金剛柵^{よこれんじ}¹³と横連子¹⁴を付し、仁王像一対を安置する。彫刻など細部意匠も端正で上質な八脚門である。

寄棟造り¹ 建築物の屋根形式のひとつで、大棟から四方に屋根をふきおろした形状のもの
五間堂² 桁行（正面）の柱間が5間（柱が6本）

外陣³ 社寺の神体または本尊を安置してある奥の間（内陣）の外側で、一般の人々が礼拝する所
虹梁⁴ 虹のように上方にやや反りを持たせてある梁

頭貫⁵ 柱の一番上に用いられる柱と柱を貫通して連なる水平材

海老虹梁⁶ 海老のように湾曲した虹梁

宝形造り⁷ 建築物の屋根形式のひとつで、4枚の屋根がすべて三角形になるもの

向拝⁸ 寺院建築・神社建築において、仏堂や社殿の屋根の中央が前方に張り出した部分のこと

入母屋造り⁹ 建築物の屋根形式のひとつで、上部が切妻造り、下部が寄棟造りになっているもの

妻入り¹⁰ 建物の妻側（棟と直角の方向になる側）に出入口のあるもの

大瓶束¹¹ 瓶子（酒を入れて注ぐのに用いる器）形の短い柱

竿縁天井¹² 床の間と平行に約45センチ間隔で取り付けられた細長い材の上に板を張った天井

金剛柵¹³ 寺院の仁王門の前面、または周囲の腰部に設ける格子状の柵

横連子¹⁴ 横に長く格子が付いている窓



普門寺本堂（所有者提供）



普門寺大師堂（所有者提供）



普門寺弁天堂〔旧龍神宮〕（所有者提供）



普門寺十王堂（所有者提供）



普門寺鐘樓門（所有者提供）



普門寺仁王門（所有者提供）